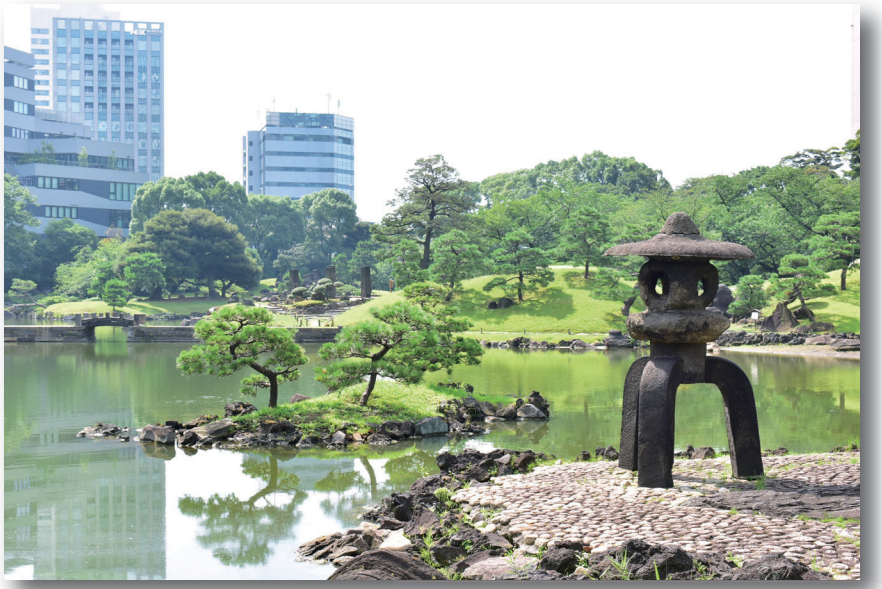
旧芝離宮恩賜庭園

きゅうしばりきゅうおんしていえん

開園　大正 13 年（1924）4 月 20 日　　所在地　港区海岸一丁目
開園面積　庭園 42,035.40 ㎡　　開放公園 1,139.96 ㎡（平成 27 年 7 月 1 日現在）



州浜と雪見灯籠



西湖の堤

今東京に残る江戸初期の大名庭園の一つです。回遊式庭園の特徴をよくあらわした庭園で、池を中心とした庭園の区画や石の配置は、非常に優れています。

明暦（1655 ～ 1658）の頃に海面を埋め立てた土地を、延宝 6 年（1678）に老中・大久保忠朝が 4 代将軍・徳川家綱から拝領しました。

忠朝は屋敷を建てるにあたり、藩地の小田原から庭師を呼び庭園を造ったと言われています。庭園は「楽壽園」と呼ばれていました。

庭園は、幾人かの所有者を経たのち、幕末頃は紀州徳川家の芝御屋敷となりました。明治 4 年（1871）には有栖川宮家の所有となり、同 8 年に宮内省が買上げ、翌 9 年に芝離宮となりました。大正 12 年（1923）の関東大震災の際には、建物や樹木に大変な被害を受けました。

翌年の大正 13 年 1 月には、皇太子（昭和天皇）のご成婚記念として東京市に下賜され、園地の復旧と整備を施し、同年 4 月に一般公開しました。また、昭和 54 年（1979）6 月には、文化財保護法による国の「名勝」に指定されました。

画像及び文章素材提供：公益財団法人東京都公園協会